

## 季節で変身、旭岳のチングルマ

水田へ春先に植えた稲穂がすくすくと育ち、少し遠くに夏の気配を感じるようになってきました。1年のほとんどの期間で雪が積もっている旭岳ですが、これから先、夏の少しの間だけは雪もとけ、旭岳の短い夏が始まります。旭岳には季節によってたくさんの高山植物が自生していますが、今日はその中でもチングルマについて紹介したいと思います。

高山植物は、原生植物に近い形を保っていることで知られています。チングルマはバラ科の高山植物で、5枚の花弁からなる小さな白い花を咲かせます。バラ科と聞くと、なんだがたくさんの花びらがあるように想像するかもしれませんが。実は普段私たちの身近にあるバラは、チングルマと似た元の姿から改良を重ねて今の姿になっています。人の知恵と技術によって品種改良されてたくさんの花びらを持つバラも美しく、見る人の気持ちを豊かにさせますが、旭岳の厳しい冬を乗り越え、人が訪れる何百年も前からその姿を保っているチン

チングルマの白い花



Nature Column (ネーチャーコラム)  
自然ガイドなどで活躍する人々をリレーしています。

ルマの姿からも、自然の雄大さを感じとる事ができます。

チングルマの群生は6月頃から見頃をむかえ、8月中旬まで登山道沿いにその可憐な白い花びらの姿を見ることが出来ます。また、秋のチングルマは夏とは一味違った姿になり見る人を楽しませてくれます。白い花びらの散った後のチングルマは、ふわふわとした白い綿毛を作ります。綿毛が飛んだ後の葉は赤色になり、野山を秋色に変身させます。



綿毛が飛んだ後の赤い葉

チングルマ以外にも旭岳にはたくさんの高山植物が自生しています。街中ではなかなか見られない高山植物を探索できるのも、旭岳で味わえる楽しみの一つかもしれませんね。

旭岳ビジターセンターには旭岳でみることのできる高山植物のパンフレットも用意してあります。登山道から見つけた動植物の事が気になったら、ぜひ旭岳ビジターセンターに足を運んでみてくださいね！

旭岳ビジターセンター ヒサワニッチ・キッティデーチ



ミャンマーではタブーなことは?

東川町国際交流員 (CIR) チョウ・タンダ・トゥー

みなさんは海外へ旅行に行く際、まず何を準備しますか? ビザや飛行機チケットやホテルなど、色々準備しておいてから旅を始めると思いますが、何か大事なことを忘れていませんか?

私は海外へ旅行する前に必ず行き先の国でやってはいけないことや独特の習慣をチェックします。これは些細な事かも知れませんが、自分が行く国に対して敬意を表することもあり、楽しい旅になることと繋がっていると思います。いろいろな国がある世界ではさまざまな文化が溢れています。自分の国では当たり前なこと



が他の国ではタブーなことになっている場合があります。例えば、ミャンマーでは仏像には親指を指してはいけないことになっています。パゴダやお寺など、精神的な建物の中に入る時には靴は勿論、靴下まで脱がなければなりません。日本とは真逆に、麺をすするときには音を立てて食べる行為は他人に無礼だと思われま

す。また、目上の人には両手で物をあげることが礼儀正し

いのです。さらに外国人がミャンマーに旅行する時に一番困るミャンマーの一つの習慣があります。それはトイレ事情です。日本のみなさんは普段トイレトイレットペーパーを使いますが、ミャンマーでは未だに主に水を使っています。私がツアーガイドをする時にはどこ行ってもトイレットペーパーを持って行くことにしています。

不思議なことに、ミャンマーでは9人、19人など「最後が9で終わる人数で旅行すると悪が訪れる」という言い伝えがあります。どうしても末尾が9になる場合は、旅を始める前に近くにある石に名前をつけて一緒に旅に連れて行くことで、1人増やします。旅が終わったらお礼を言ってその石を捨てます。これはすなわち、日本では「4」の番号がつく部屋がないことと同じなのではないでしょうか?

これからコロナが幕を開けたあと、みなさんも旅の冒険の前にその国のタブーなことや不思議な習慣を探ってみませんか?